

万吉だより

MA GECHI NEWS

第29号 令和元年(2019)年10月

埴輪と博物館

館長 時枝 務

今回の企画展で取り上げるのは埴輪である。

いうまでもないことだが、埴輪と博物館の縁は深く、人物埴輪や動物埴輪は博物館のアイドルといつてよい存在である。「踊る埴輪」のぬいぐるみや模造品が、ミュージアムグッズとして一定の人気を博していることは、多くの人が知っている。

埴輪が博物館で展示されるようになったのは明治時代のことで、当時は上古の服装を知ることができる資料として注目され、もっぱら有職故実の研究材料として位置づけられていた。著名な考古学者である東京帝室博物館の後藤守一の埴輪研究も、その出発点は有職故実への関心から始まったが、やがて埴輪が表現する情景へと関心が推移していった。埴輪列が葬式の行列を表しているという説はその代表的なものである。後藤は、博物館の日常の業務として埴輪を展示しながら観察を深め、当時としては斬新な仮説を生み出していたが、やがてそれには物足らず自分で直接古墳を発掘して埴輪の実態を調べるようになる。群馬県の赤堀茶白山古墳の発掘調査では、家型埴輪や埴輪椅子を検出し、その配置は豪族居館を考えるうえで重要な手がかりを提供した。埴輪研究は新たな段階を迎えたのである。

ところで、博物館の埴輪は全形がわかるような立派なものが多いが、大部分は修復された結果そうなっているのであって、出土時点ではばらばらの破片であった。かつて東京帝室博物館には埴輪修理室という部署があって、埴輪をはじめとする考古資料の修復にあたっていたが、その修理についてはこんなエピソードがある。埴輪の修理を依頼した人物が、完成したというので行ってみると、同じ埴輪が2体並んでいる。聞けば、修理したものと模造品だといい、修理したものをお持ち帰りくださいという。そこで、修理品を持ち帰ろうとすると、技術者が「それは模造品ですので、こちらをお持ち帰りください」というので、驚いたという話である。あくまでも噂であって、どこまで事実を反映しているかわからないが、当時の埴輪修理のあり方をうかがわせる話ではある。

今回は、それほど立派に復原した埴輪はなく、破片はそのまま展示しているものが主体である。そのほうが製作技術の観察には適しており、今回のテーマが基本的に埴輪生産と流通のあり方を問うことにあるとすれば、偶然にも理に叶ったものとなった。生産地である埴輪窯出土資料と、消費地である古墳出土資料を、同時に観覧できる機会はそれほど多くない。ぜひ来館いただき、自分の目で、生産地と消費地の埴輪の実際を観察していただきたい。

NEWS

企画展「東国の埴輪と埴輪窯」のお知らせ

令和元年10月30日（水）から12月13日（金）を会期として第14回企画展「東国の埴輪と埴輪窯」を開催します。

博物館の人気者である「埴輪」。特に「踊る埴輪」は誰もが知るキャラクターとして親しまれています。しかし、この「踊る埴輪」が熊谷市江南地域の野原古墳（野原古墳群中の前方後円墳）から出土したことを知る人は多くはないでしょう。

野原古墳群は、立正大学博物館が所在する熊谷キャンパスの南東にあり、立正大学考古学研究室ではこの古墳群を昭和39（1964）年に発掘調査しています。また、「踊る埴輪」を製作したと推定される権現坂埴輪窯跡群は江南地域にあります。

また、昭和20年代に開設されていた「歴史参考品室」に所蔵されていた埴輪は現在当館に引き継がれています。人物埴輪の頭部は東京都港区の芝丸山古墳から出土したと伝えられ、そして、その製作地は埼玉県鴻巣市の生田塚埴輪窯跡とされています。



東国の埴輪と埴輪窯

◆会期：10/30(水)～12/13(金)

◆会場：立正大学博物館 第1展示室

◆開催時間：10時～18時

◆特別開館日：オープンキャンパス 11月7日(金)
12月7日(土) 午後1時～

◆三館連携事業
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 12月14日(水)
埼玉県立歴史と民俗学館 11月14日(水)
立正大学考古学研究室 (熊谷市船木台44-1)
立正大学文化財センター (熊谷市千代329)
立正大学博物館

◆開館日等の詳細はホームページにてご確認ください

立正大学博物館
Ritsumeikan University Museum 〒330-0294 埼玉県鴻巣市船木台44-1 TEL: 048-536-6170 FAX: 048-536-6170 www.ris.ac.jp/museum/index.html

立正大学
モバイルサイト

第14回 企画展チラシ

今回の展示では、本館所蔵の埴輪とともに、埴輪の生産地である埴輪窯の資料や関連する埴輪を展示します。古墳に立てられた埴輪がどこで生産され、運ばれたのか、ぜひご覧ください。

◆企画展関連事業

【埼玉県民の日 三館連携事業】

- ◆日時：11月14日（木）施設の閉館時間
- ◆会場：埼玉県埋蔵文化財調査事業団
(熊谷市船木台44-1)
熊谷市江南文化財センター
(熊谷市千代329)
立正大学博物館
- ◆内容：各施設で特別展示や火おこし体験、勾玉づくり等を開催します。お楽しみに！

【記念講演会】

- ◆12月7日（土）午後1時～
- ◆立正大学熊谷キャンパス
ゲートプラザ 1202教室
- ◆講師：新井 端 氏（熊谷市教育委員会）
大谷 徹 氏（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）
山崎 武 氏（埴輪研究会）
- *お申込みはFAXまたはEメールでお願いします。
- FAX：048-536-6170
- Eメールアドレス：museum@ris.ac.jp

文殊寺境内採集の埴輪片

時枝 務

1. 発見の経緯

2019年5月9日、埼玉県熊谷市野原の文殊寺境内を散歩していたところ、偶々円筒埴輪の破片を見つけた。文殊寺境内は、学生時代から何度となく訪れた場所であるが、今まで埴輪の破片を採集したことはなかった。あまりにも小さい破片ではあるが、今回の企画展とも関連するものなので、資料紹介をしておくことにした。もとより、埴輪についての基礎知識さえ不十分な筆者ではあるが、発見当事者としての責任を全うすべく、駄文を草することにした。

2. 採集場所

文殊寺は、五臺山に淵源する文殊菩薩を祀る寺院として、近世から多くの信者の信仰を集めてきた。しかし、度重なる火災によって、伽藍の旧態を保つことができなかった。そのため、最近では整

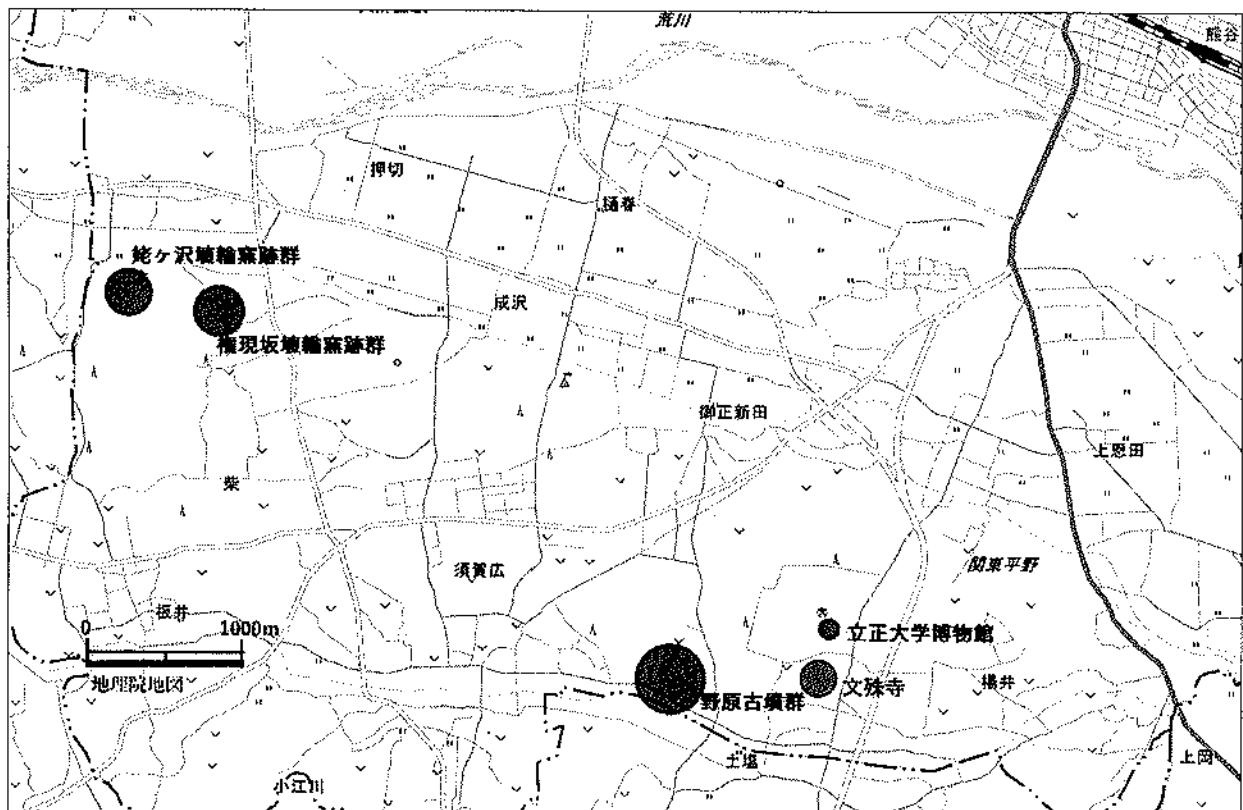
備されたが、長年境内のあちこちに礎石などが散在している状況であった。

境内は、東側に山門があり、大きな結界石が建つ。そこから参道を西側に進むと、かつては両側に石碑類が並んでいたが、現在は境内南側の広場の北側に集められている。中門を潜り、さらに進むと本堂に到着するが、この本堂の左手に句碑などがある山林がある。句碑は、芭蕉翁を慕うものであるが、周辺には何箇所かこんもりした土の盛り上がりがある。また、かつては板碑の破片などがみられたが、現在では確認できない。

その山林の入口、本堂から南に行った句碑よりも手前の地点で、埴輪片は発見された。通路と山林部分の境界で、礫などに混じって雨に洗われた焼物特有の肌をみせていたため、筆者の目に止まったのである。

採集地点の背後には塚状の起伏があるが、古墳と確認されているわけではなく、後世の土砂の攪乱に由来する可能性もある。要は、現地性のものか、搬入されたものか、現時点では判断できないのである。

こんな曖昧な資料であるが、観察記録を報告し、若干の考察をおこなっておこう。



第1図 立正大学博物館と周辺の遺跡位置図

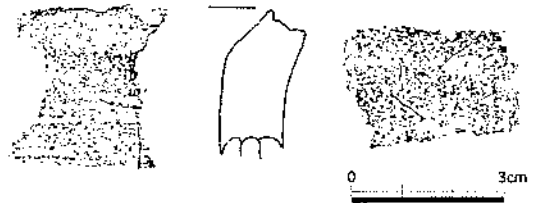
3. 採集資料

図に示したようにごく小さな破片である。ただ、口縁部の破片なので、それなりに情報を読み取ることができる。

幅3.5cm、高3.9cm、口唇部厚0.8cm、厚1.2cmを測る。口唇部は緩やかに外反し、体部は直立に近いが、なにぶん小さな破片のため所見は部分的なものである。

外面は、口唇部付近に横ナデ調整痕がみられるが、それ以下は縦方向の刷毛目調整である。内面は、口唇部直下に受口状の指頭ナデに由来する窪みがみられ、その下の隆起部までナデ調整が及ぶが、それ以下は横方向の刷毛目が走る。口唇部上端は、内外面に接する両端が隆起し、中央が窪むが、中央には刷毛に由来する可能性が高い凹線が残る。

焼成は良好で、断面まで焼きむらがなく、全体に明るい茶褐色に仕上がっている。胎土は、長石粒を含むが、良質である。



第2図 埴輪片実測図

4. 若干の所見

形態・焼成などから判断して、6世紀の円筒埴輪の口縁部破片であることは、誰でも推測できるであろう。長石を含むことを手がかりに、生産地を絞り込むことが可能なのかもしれないが、なにぶん素人である筆者には判断しかねるところである。将来の専門家による観察結果を待ちたい。

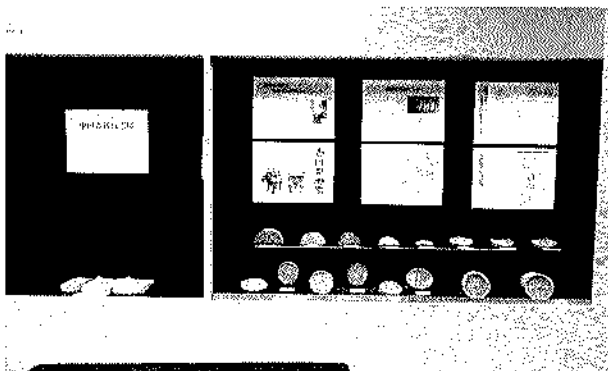
問題は、この資料が現地性のものかどうかで、もし現地性だとすれば、文殊寺境内に後期古墳が所在する可能性がある。今後の研究によって詳細が判明する日が来るであろう。

◆品川キャンパス展示

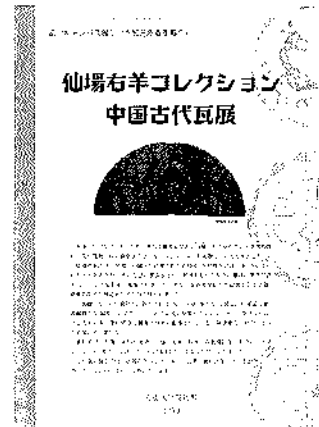
令和元年5月31日（金）より品川キャンパス9号館エントランスにて「仙場右羊コレクション中国古代瓦展」を開催しています。

仙場右羊コレクションは「万吉だより」第22号（平成28年3月）に紹介しましたとおり、鎌倉市在住の書家・仙場右羊（本名：仙場幸男。故人）氏が長年にわたって収集されたコレクションを本館にご寄贈いただいたものです。寄贈された資料は、瓦150点、磚5点、土器22点、墓誌1組、青銅器7点、鋳型1点、参考文献2冊です。

展示品は、燕や斉の半瓦当が5点、秦・漢の円瓦当が11点です。通常目にするのが少ない、貴重な瓦です。また、瓦当の文様も様々ですので、この機会にぜひご覧ください。



展示風景



配布中のパンフレット

館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のための館務実習生を受け入れました。実習生は、文学部7名、仏教学部4名の計11名でした。

前期：8月4日(日)～6日(火)

◆8月4日(日)

- ・館長によるあいさつ 時枝務館長
- ・実習ガイダンス及び博物館の概要 足立佳代学芸員
- ・古文書に関する講義と実習

講師：石山秀和氏（文学部史学科准教授）

資料としての古文書の特徴や取り扱い方等の講義、実際の古文書を用いて古文書調査カードの作成を行いました。実習生たちは、読み慣れない古文書の解読に四苦八苦していました。

◆8月5日(月)

考古資料に関する講義と実習

講師：紺野英二氏（文学部史学科）

立正大学博物館に所蔵されている資料について、考古資料の特徴と取り扱い方の講義、立正大学博物館所蔵の須恵器の調査カードを作成し、須恵器底部の拓本を採りました。

◆8月6日(火)

自然誌に関する講義と実習

講師：北沢俊幸氏（地球環境科学部環境システム科准教授）

資料としての砂の特性や災害と砂についての講義、砂の観察、標本作成等の実習を行いました。

後期：9月3日(火)～9月5日(木)

◆9月3日(火)

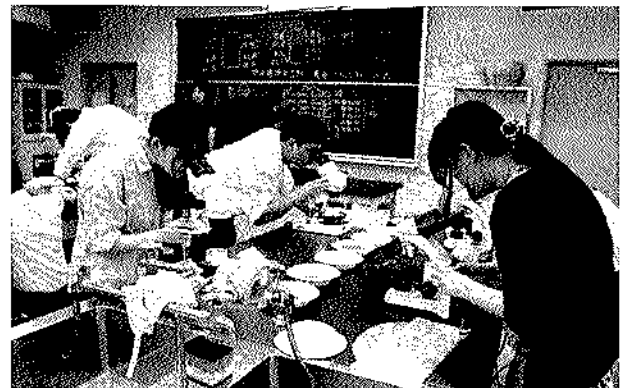
刀剣の取扱に関する講義と実習

講師：田嶋和久氏（文学部社会学科准教授）

模造刀を使って取扱い方や手入れの実習を行いました。模造刀とはいえ、実習生は大変緊張していました。



令和元年度実習生



実習風景（砂の観察）



実習風景（須恵器の拓本）



実習風景（日本刀の取扱い）

◆9月4日(水)

文化史に関する講義と梱包実習

講師：井上尚明氏（立正大学非常勤講師）

考古資料についての講義と、資料の梱包の実習を行いました。実習では、博物館の展示品である須恵器を自分たちで作製した梱包材で梱包しました。



実習風景（考古資料の梱包）

◆9月5日(木)

博物館の展示と資料整理に関する実習

講師：池田奈緒子氏（元立正大学博物館学芸員）

坂詰秀一名誉教授が当館に寄贈された絵馬の取り扱い方と調査カードの作成を行いました。



実習風景（絵馬の調査カード作成）

館内利用

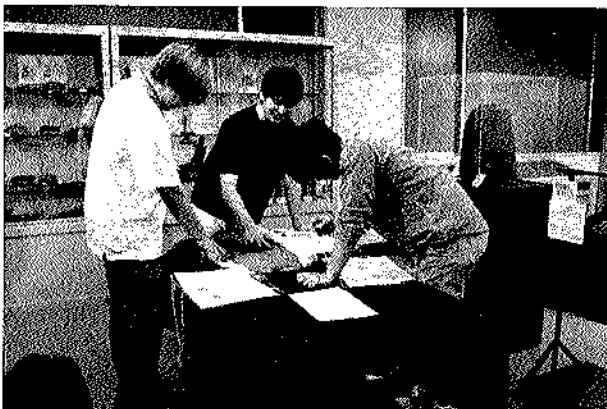
地球環境科学部環境システム科の実習で博物館資料が活用されました。

貸出資料：板碑

日 時：6月26日(水)

参加者：実習生28名

内 容：武蔵型板碑は、秩父地方から産出する岩石である緑泥片岩を加工した中世の供養塔です。実習生たちは、下岡順直先生の指導のもと、岩石としての特徴等を理解するため、板碑を観察・スケッチしました。



実習風景

資料活用

〈資料展示〉

①港区立郷土歴史館

貸出資料：人物埴輪頭部（伝芝丸山古墳出土）

礫石経（徳川家重墓出土）

貸出期間：令和元年7月20日～9月25日

利用目的：特別展「港区と考古学－未来へ続く、遺跡からのメッセージ」（会期：7月20日～9月23日）において展示するため。

〈写真提供〉

②六一書房

貸出資料：称名寺貝塚出土の骨角器の写真

利用目的：『考古学の地平II 縄文時代中期の土器論と生業研究の新視点』（著者 山本典幸 考古学の地平グループ 編）の表紙に掲載するため。

③テレビマンユニオン

貸出資料：四枚畑貝塚の集合写真（吉田格コレクション）

利用目的：「反骨の考古学者ROKUJI」にて八幡一郎を紹介し、放映するため

放 映：NHKBS4K 8月11日(日)、18日(日)

刊行物

平成31年3月から9月までに下記の刊行物を発行しました。

●第13回特別展「礫石経」図録

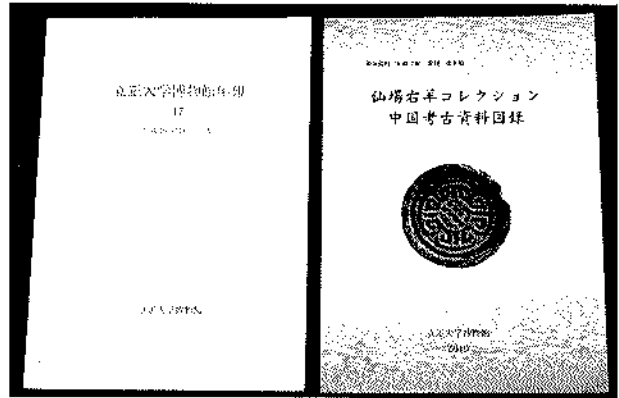
平成31年2月22日（金）から3月28日（木）に開催した特別展の図録を2月22日に刊行しました。
〈B5版、27頁、カラー〉

●『仙場右羊コレクション中国考古資料図録』

平成27年に仙場右羊氏より寄贈された中国古代瓦を中心としたコレクションを、仙場氏のご意志に沿うように資料の整理を実施してまいりました。平成31年に作業が終了し、平成31年3月30日に『仙場右羊コレクション中国考古資料図録』（館蔵資料「基礎文献」叢刊 第8輯）として刊行しました。
〈B5版、35頁、カラー〉

●『立正大学博物館年報17』

平成31年度の博物館の事業等を報告した年報を平成31年4月30日に刊行しました。
〈B5版 17頁、モノクロ〉



『立正大学博物館年報17』と
『仙場右羊コレクション中国考古資料図録』

運営委員会

立正大学博物館運営委員会は本学の教職員9名からなり、今年度は3名の委員が退任し、新たに3名の委員が就任しました。

立正大学博物館運営委員

- 第1号委員 時枝 務（博物館長）
- 第2号委員○足立 佳代（学芸員）
- 第3号委員 清水 海隆（社会福祉学部長）
- 第3号委員 鈴木 厚志（地球環境科学部長）
- 第4号委員○木村 浩（産業経営研究所長）
- 第4号委員 梅澤 啓一（社会福祉研究所長）
- 第5号委員 安田 治樹（博物館関係学識経験者）
- 第6号委員 石山 秀和（文化史関係学識経験者）
- 第7号委員○川野 良信（自然史関係学識経験者）
- * 敬称略（○は新任委員）

今年度は10月までに定例運営委員会と臨時運営委員会を開催しました。

令和元年度第1回博物館運営委員会

- 日時：6月3日（月）
- 会場：品川キャンパス第8会議室
熊谷キャンパス第2会議室
- 議題：平成30年度事業報告及び決算報告
令和元年度事業計画及び予算

臨時運営委員会

- 日時：7月18日（木）
- 会場：品川キャンパス第1会議室
熊谷キャンパス第4会議室
- 議題：立正ミュージアムの開設について

利用者の声

夏休み期間に実施されたオープンキャンパス（8月4日、18日）には、180名を超える高校生とその保護者のみなさんにご来館いただきました。

見学されていた方の中には将来博物館で学芸員として働きたいという夢を語ってくれた高校生、生徒さんよりも熱心に展示品を見ながら質問される保護者の方もいらっしゃいました。



オープンキャンパスで賑わう展示室

利用案内

所在地：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学熊谷キャンパス内

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

開館日：月・水・木・金・土曜日（大学休業中を除く）

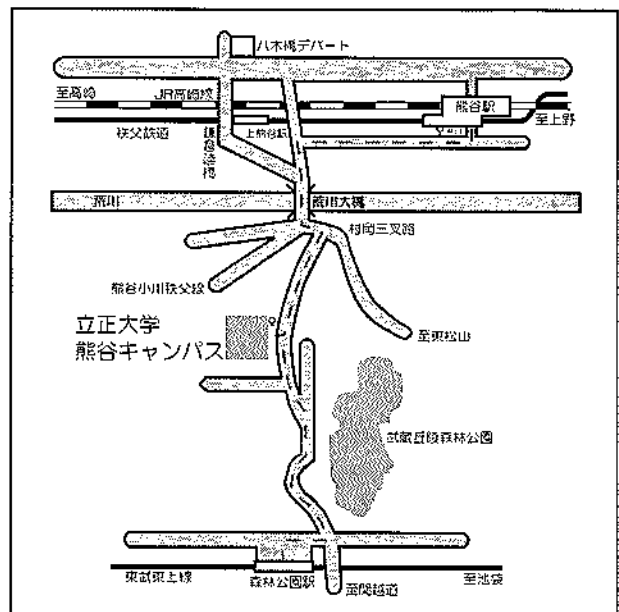
開館時間：10：00～16：00

※詳細につきましては、博物館ホームページをご覧ください。

交通機関：

- ① JR 高崎線、北陸新幹線、秩父鉄道「熊谷駅」下車。
南口より立正大学行バス（国際十王交通）で約10分。
- ② 東武東上線「森林公園駅」下車。北口より立正大学行バス（国際十王交通）で約12分。

お問い合わせ：博物館または熊谷総務部総務課
(048-536-6010) にご連絡下さい。



あとがき

令和初の企画展は、「埴輪」をテーマにしました。博物館のアイコンとして人気の埴輪ですが、埴輪が立てられた古墳、その生産地である窯跡を調査・研究することで古墳時代の流通や地域間交流などが明らかにされています。博物館の埴輪をご覧いただきながら、どこから、どのように運ばれてきたのか、思いをはせてみてください。

ご来館を心よりお待ちしております。

立正大学博物館館報 万吉だより 第29号

令和元(2019)年10月15日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

URL : <http://www.ris.ac.jp/museum/index>

題字揮毫 田淵 観 斎（立正大学名誉教授）

（印刷：アサヒコミュニケーションズ）